

良性および悪性を含む脊索細胞性腫瘍に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022 年 11 月 18 日 ～ 2030 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

肺原発良性脊索細胞腫(BNCT)の病理組織学的検討

〔研究目的〕

本研究の目的は、極めて稀に肺に発生する脊索細胞性腫瘍に関して、通常の良性脊索細胞性腫瘍および悪性の脊索腫と比較検討を行い、良性腫瘍か悪性腫瘍かを明らかにすることです。

〔研究意義〕

脊索細胞腫瘍は、胎児の発生段階で重要な脊索組織と言われる組織に分化を示す腫瘍で、頭蓋底や背骨、尾骨といった体の中心の軸骨格に発生する非常に特徴的な腫瘍です。多くは脊索腫と言われる悪性腫瘍ですが、良性脊索細胞腫と言われる良性の腫瘍も知られています。極めて稀に肺にも脊索細胞腫瘍が発生し、多くは良性腫瘍として報告されているものの、統一見解が得られていません。この腫瘍が良性腫瘍か悪性腫瘍かが明らかとなれば、適切な治療法が確立します。

〔対象・研究方法〕

1990 年から 2023 年の間に、帝京大学医学部附属病院および共同研究機関(一覧参照)で、脊索細胞腫瘍(脊索腫あるいは良性脊索細胞腫)と診断された方を対象とします。手術で切除された検体の病理組織標本を用いて、腫瘍細胞の性質を調べるために、免疫染色を行い各種タンパク質の発現状態を検討すると共に、脊索腫および良性脊索細胞腫との形態学的比較検討を行います。患者様の性別、年齢、病歴、術前画像所見、手術日、予後、を検体に付随する情報として、これらとの関連性も検討します。情報および試料は帝京大学医学部病理学講座に提供され、そこで分析されます。病理組織標本を画像データとして取り込み、東京大学大学院医学系研究科衛生学教室に提供され、人工知能による画像解析も行われます。また、病変部から DNA を抽出し、遺伝子発現を抑制するメチル化を委託先機関において網羅的に解析します(解析データに生殖細胞系列の遺伝情報は含まれません)。

〔研究代表機関名〕

帝京大学医学部病理学講座 研究代表者: 菊地良直

〔個人情報の取り扱い〕

研究結果は、個人が特定できない形式で学会等において発表されます。情報は個人を特定できない形に加工して対照表を作成し保管します。東京大学大学院医学系研究科衛生学教室に提供される人工知能による画像解析用の画像データは、個人が特定できない形に加工して提供されます。収集したデータは、厳重な管理のもと、研究終了後 10 年間保管されたのちに破棄されます。

対象となる患者様またはご遺族様で、ご自身またはご家族の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部病理学講座 准教授 菊地良直
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL: 03-3964-1211(代表) [内線: 48210]

[共同研究機関・研究責任者一覧]

帝京大学医学部附属病院・菊地良直

国家公務員共済組合連合会虎の門病院・藤井丈士

がん・感染症センター都立駒込病院・元井亨

高知医療センター・岩田純

信州大学医学部附属病院・上原剛

成田赤十字病院・澁谷潔

岩手県立胆沢病院・渋谷丈太郎

滋賀県立総合病院・岩佐葉子

千葉大学医学部附属病院・太田昌幸

神奈川県立がんセンター・大久保陽一郎

東京大学大学院医学系研究科(情報提供先機関)・石川俊平

四国がんセンター・高畑浩之

千葉県がんセンター・牧瀬尚大

栃木県立がんセンター・阿部信

マクロジェンジャパン Array 技術サービス部門長・Kim Jungeum